

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・来客数が回復基調にある。住宅業界では、このような状況は徐々にあり、総合展示場への来客数は昨年11月の85組から、今年度4月には155組と回復している。
	変わらない	スーパー（企画 担当）	競争相手の様子	・競合各社の新店オープンが相次ぎ、引き続き客の分散化が進んでいる。
		コンビニ（経営 者）	お客様の様子	・衝動買いをする客の少ない状況が続いている。 ・近くの小学校で入学式があったが、通常ならば売れるカメラやフィルムの売行きが悪かった。
		衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・客の様子から、以前と比べ安い物より長い目でみて良いものを買おうとする傾向がみられる。
		家電量販店（副 店長）	お客様の様子	・週末の来客数はほとんど3か月前と変わらない状態なのだが、平日の来客数は減少している。
		乗用車販売店 （総務担当）	販売量の動き	・計画に対する実績に、大きな変化がみられない。
		観光型ホテル （副支配人）	来客数の動き	・弊社のような事業では季節により売上が大きく変化するため、3か月前の冬の時期とは単純に比較はできないが、3か月前と比較して売上は変わっていない。 ・前年同月との比較では、来客数、売上ともに増加している。
	ゴルフ場（経営 者）	単価の動き	・安ければ集客できる。	
	やや悪く なっている	百貨店（担当 者）	販売量の動き	・春休み後、急速に衣料品を中心に販売量が減少している。3月初旬にも同様の傾向がみられ、販売数量は昨年比97%まで回復していたが、4月は来客数、販売数ともに厳しい状況である。安定しない天候による影響が大きいと判断されるが、気温やニーズに即した仕掛けを店頭で実施しても反応が少ない。瞬間支出の傾向が消費者の中に強まっている。
スーパー（財務 担当）		競争相手の様子	・競争店の新店舗オープンや24時間営業店舗の増加がみられる。	
コンビニ（エリ ア担当）		来客数の動き	・イラク戦争による修学旅行のキャンセルや修学旅行客の外出禁止がマイナス要因となっている。	
コンビニ（エリ ア担当）		単価の動き	・コンビニ弁当は以前は、390円シリーズが最低価格ラインだったのだが、350円以下に移行しつつある。	
その他専門店 〔書籍〕（店 長）		お客様の様子	・客が目的以外の商品をなかなか手に取らなくなっている。 ・買物に来て、衝動買いをすることがなくなっている。	
その他飲食〔居 酒屋〕（経営 者）		来客数の動き	・例年、連休前は買い控えにより来客数が減少するのだが、今年は特に例年比で20%の大幅な減少となっている。 ・新規オープンの店は売上目標の100%以上を達成しているが、既存店は売上下落が激しい。	
旅行代理店（経 営者）		販売量の動き	・SARSによる影響から、販売量が激減している。	
悪く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・現在デフレが進行中で、個々の店の話では、単価は下落し、販売数も減少するなど、中には2、3日売上がないという店も出ており、大変厳しい状況下にある。	
	高級レストラン （副支配人）	来客数の動き	・来客数は極端に減少しており、新聞等の観光関係の発表内容によれば入域観光客数は増加しているが、データに現状が反映されていない部分もあるのではないかと。同業者からも客の入りが悪いとの話が聞かれることから、数字の信憑性が同業者の中で話題となっている。 ・客の動きも鈍く、単価も低下している。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・3月、4月と我が社に対する問い合わせ件数、及び成約件数が増加している。

	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・入学、転勤シーズンで、引っ越し、事務用品等の物量は前年より減少しているものの、2、3か月前よりは増加している。
	通信業（従業員）	それ以外	・案件のほとんどが中長期的な事業であるため、実際に収入となるまでには期間を要することから、毎月のキャッシュフローを心配するベンチャー企業には辛い案件となっているが、案件数は増加している。
	変わらない	-	-
	やや悪くなっている	通信業（営業担当） 不動産業（支店長）	受注量や販売量の動き 受注量や販売量の動き
	悪くなっている		・既存サービスの解約が発生しており、新規需要の伸び率も鈍化傾向にある。 ・問い合わせ件数が、大幅に減少している。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き
	やや悪くなっている		・新規求人数は2,432人で前年同月比20.6%の増加となっている。 ・有効求人倍率は、前年同月比で3か月連続して増加で推移している。 ・求職件数も前年同月比で24.3%と4か月連続の増加となっている。
	悪くなっている	-	-
			・派遣依頼は増加しているものの、契約更新をストップする企業もあり、結果としてプラスマイナスゼロという状況である。また派遣依頼があったとしても、それは予定派遣として、いずれ正社員にするという形での派遣の形態が増加している。この状態がしばらく続く。